バッチユルドル氏建言

貨幣ノ政ヲ救醫スルノ策

327

貨幣ノ政ヲ救醫スルノ策

貴國ノ過ル十年間理財上ノ景況ヲ観察スルニ常ニ戦乱ノ事アリシニ由リ軍資ノ支出隨テ繁ク為メニ諸商賣上ニ不景気ヲ醸セルハ勿論衆多人民ノ負擔ヲ重フシ今日尚ホ其害ヲ社會ニ遺スヿハ多辯ヲ俟タスシテ明カナリ我ガ米国ニ於テモ嚮キニ奴隷黨ノ反乱ニ際シ之ニ齊シキ経験及ヒ景況アリシハ能ク人ノ知ル所ナリ然リ而メ我ガ米国ハ此際ニ於テ数十億弗ノ財貨ト数十万ノ人命トヲ其犠牲ニ供シタリシト雖圧日本ニ於テハ其争乱戡定ノ為メニ消費スル所ノ正金壱億弗ニハ上ラザルベシ是ニ由テ之レヲ案スルニ若シ日本人民ニシテ勉メザルベカラザルノ事業ニ従事シ孜々トシテ富源ヲ開クニ急ナラズンバ今日ノ理財上ノ傷痍ヲ醫スルニ何ノ難キヿカ之レアランヤ

今マ余ガ論セントスル所ハ決シテ既往ヲ追フニ在ラス唯曽テ

大正十一年四月
大隈侯爵家寄贈

414
A1171

余ガ屡々閣下ニ忠告セシハ日本ノ富源ヲ現在又将来ニ於テ愈々盛大ニ興起セントスルノ謀ニ就テ論セントスルナリ偖テ今此謀ヲ施サント欲スルニハ先ツ其通貨（紙幣ヲ指ス乎）ハ自由ニ交換シ得ベキモノトナサヾルベカラス何トナレバ貨幣ナルモノハ職工社會ノ盛衰ヲ支配スベキ最モ有機ノ性質ヲ具フレバナリ夫ノ「キリヤリング、エキスチエーンヂ、エンド、ルヴアー、バンク」（銀貨ヲ引換ヲナス銀行ノ義カ）トハ其極ニ至リテハ殆ド同一ノ成果ヲナシ貨幣ノ價格ヲ規則立テ正貨ト紙幣又ハ紙幣ト正貨ノ交換ヲ司トルベキナリ従来貴国ニ於テ金銀及ヒ紙幣ハ共ニ通貨トシテ用ヒラレタレバ今後トテモ必ス此ノ三種ハ互ヒニ交換スベキ貨幣トシテ行ナハルヽナルベシ然シテ貨幣ト家畜、羊毛、穀類、棉花、茶、蠶糸、毛皮、阿片、魚介等トハ国ノ富タル実ニ於テ異ナル所ナシ何トナレバ是等ノ産物サヘアレハ何時ニテモ之ヲ携帯ニ便ナル貨幣ノ代物（生活ノ資ニシテ且ツ）

タラシムルヿヲ得ベケレバナリ其実例ノ最モ著明ナルモノヲ知ラントセバ近時米国又ハ佛国ノ戦後ヲ看ヨ其財貨ハ一旦殆ど地ヲ拂フテ消費シ尽セシト雖モ其産物ノ力ハ依然トシテ国土ニ存シタルニ由リ為メニ十分其輸出品并ニ金銀飾具等ノ製造ニ供スベキ金銀貨幣ヲ国内ニ保有スルヿヲ得タリ是ニ由テ之レヲ観ルニ黄金ハ技術学藝ノ用ニ供センガ為メノ需要ノ多少ニ由テ支配セラレ貨幣ハ治乱ノ如何ニ由テ支配セラルヽモノナリ故ニ戦時ニハ其價格常ニ貴ク而メ何レノ開明国ニテモ治平ニシテ諸業ヲ進ムルノ国是ヲ保ツノ際ニ在リテハ其價格毎ニ低シトス

今マ貴国ニ於テ「コルヴワー、キリヤリング、エキスチエーンヂ、イヌシユー、エンド、デポジット、バンク」ナル理財上ノ一器具ヲ有スルニ於テハ閣下ガ管轄スル所ノ省ニ益スルモノ蓋シ甚ダ浅少ナ

ラザルベシ就中紙幣ノ價ヲ騰貴セシメテ其本位價格ヲ將来
ニ保タシムルガ如キハ其第一着ニシテ加之日本帝国内ノ貨幣
相庭及ヒ正金存在高ヲ日々知リ得ルノ便アルベシ
若シ貴国政府横濱ニ於テ「シルヴワー、エンド、デポジット、バンク」ヲ
開設セント欲スレバ米国ノ「モニー、キング」（金満家ノ義）等ト協議シ資
本金壱千万円ヲ備ヘ銀行紙幣ヲ発行スルノ仕組ニテ「シルヷー、
キリヤリング、バンク」ヲ開設セラレ其資本金ノ内一半ヲ日本政
府及ヒ日本銀行者ヨリ出ス片ハ閣下ニ於テ洋銀、貿易銀及ヒ銀
円等ノ如キ諸貨幣並ニ金銀塊ハ勿論諸紙幣ノ相庭ニ至ルマデ
之レヲ一定シ紙幣ノ如キハ該「キリヤリング、バンク」ニ於テ一週
間ニ取引スベキ相庭ヲ豫メ一定スルコヲ得ベキナリ
閣下ハ右ノ方法ヲ以テ貴国ノ紙幣相庭ヲ一定スルノ良法ト見
認メラルヽハ必然ナラン又別ニ之レヨリ一層大ナル利得アリ

其故ハ方今ニ在リテハ輸入品ノ為メニ拂フ洋銀ノ相庭ト輸出
品ノ為メニ請取ル洋銀ノ相庭トハ其間大ニ差等アルハ貴国人
民ノ大ニ憂フル所ナルモ一旦該「キリヤリング、バンク」開設ノ日ニ會
ハバ洋銀ノ相庭自カラ一定スベキニ由リ斯ル日本人民ノ憂患
ハ頓ニ消滅ニ屬スベシ夫レ斯ノ如クナル片ハ貴国ノ洋銀賣買
十ガ八九ハ此ノ銀行ヲ經テ取引ヲ行フニ至ルベキニヨリ自カ
ラ貴国政府ニ於テ輸入品ニ向ヒ洋銀相庭ヲ支配スルコヲ得且
ツ為メニ洋銀交換ヲ要スル所ノ内国人民ヲ救助スルヲ得ベシ
況ヤ之レト時ヲ同フシテ政府及ヒ人民ニ大害ヲ被ムラシムル
コヲモ顧ミス妄リニ紙幣ノ賣買ニ従事スルガ如キ徒、頓ニ其跡
ヲ市場ニ絶ツニ至ルベキニ於テオヤ
貴国ノ銀行ト米国ノ銀行及ヒ「シルヴワー、キング」（銀ニ富メル豪家ノ義カ）等ト
資本ヲ併セテ前述ノ如キ例ノ「シルヴァー、バンク」ヲ起ス片ハ豫

テ貴国政府及ヒ人民ハ先ヅ今日日本、支那及ヒ東方諸国ニ於テ買収セシ物貨ニ付テノ代價ヲ償ハンガ為メト東洋ヲ警衛スル軍艦ノ費用トノ為メニ毎歳倫敦ヲ経テ壱千貳百万弗以上ヲ買収セザルヲ得ザル所ノ我ガ米国政府及ヒ人民ニ於テモ渇望シテ止マザル所ノ一大銀市場（デポフォーシルヴァーエキスチエーンゲ）ヲ忽チ日本国ニ建設スルニ至ルベシ

該銀行即チ上文ノ「シルヴァー、バンク」ヲ云フ下同シハ初メ壱千万円ノ資本ヲ備ヘ漸次英国及ヒ支那地方ニ其支局ヲ張ルニ当リテハ其資本ヲ五千万円マデ増加シ得ルノ権ヲ有セシメ而メ十ケ年間営業ノ免許ヲ日本及ヒ米国政府ニ於テ与フル片ハ日ヲ竢タスシテ諸条約國ニ對シ貿易上ノ信憑ヲ得ルニ至ルハ亦疑フベカラス加之ノミナラス之ガ営業資本ハ日本及ヒ米国ノ銀行資本ニ屬スルヲ以テ従来ハ銀弗、銀塊、為換、及ヒ其他銀行ノ営業ハ倫敦ニ起リ印度及ヒ支那ニ其脉胳ヲ通シタルモ一変シテ「サンフランシスコ」ニ起リ日本、支那、欧洲、亜米利加ニ其脉胳ヲ通スルニ至ルベキナリ

従来墨西哥、南亜米利加、及ヒ「カリフオルニヤ」ニ於テ餘剰アル銀弗ノ中十ガ八九ハ先ツ倫敦ニ輸入シ其レヨリ印度及ヒ支那ニ回リ来ルニ由リ之レヲ「サンフランシスコ」、横濱、支那ノ間ヲ経ルノ捷径ニ比スレバ其運賃、海上保険料、時間ノ損失及ヒ利息等ノ冗費極メテ大ナルヲ知ルベシ又該銀行ノ支局ヲ上海ニ開カバ現今同地ニ於テ欧人ガ営業セル銀行事務ノ過半ヲ吸収スルニ至ルハ必然ナラン

然リ而メ是レ迄貴国政府ガ募債ヲ要スルノ時ニ際シテハ已ムヲ得ス高利ヲ以テセシト雖モ該銀行設立ノ日ニ至ラバ低利ニテ之レヲ募ルノ便アルベシ加之ノミナラス貴国ノ少年輩該銀行ノ株主トナルベキノミ該銀行ニ出入シ其実際ニ就テ業

著ノ蕴奥ヲ学修スルコヲ得ベケレバ方今ノ如ク日本国内ニ先
練熟達ノ銀行者ニ乏シキヲ告クルコナカラシムルニ至ルベシ
而メ其益何ゾ獨リ此ニ止マラン貴国ノ造幣局ハ世界ノ一大銀
庫ヨリ直接ニ銀塊ヲ得テ之レヲ鋳造ノ用ニ供スルコヲ得ベケ
レバ従テ其價格ノ如キハ貴国政府ノ為メニモ銀ノ所有主ノ為メ
ニモ満足スベキノ割合ナラン然ルトキハ該銀行ハ益々銀價ノ一
定ヲ謀ルコヲ得ベキニ由リ遂ニハ支那地方ニ営業スル諸銀行
者ト一大高賣ヲ開クコヲ得ン是等銀行者ハ欣然トシテ該高賣
ノ速カニ開ケシコヲ渇望スベキナリ況ヤ現時欧洲銀行資本ノ
景情ヲ觀察スルニ其支那及ヒ印度ニ輸送スル銀貨ノ額ヲ漸ク
減縮セリ此ノ十ヶ年間（一千八百六十九年乃至一千八百七十九年ヲ指ス乎）ヲ以テ前ノ十
ヶ年間ニ比スレバ貳億六千百四拾五万三百四拾弗ノ減縮ヲ致
セルニ由リ支那及ヒ印度ニ於ケル銀供給ノ乏シキニ苦シムノ秋ナ

レバ該銀行ノ設立アルヤ忽　支那及ヒ印度ニ向ヒ一大高賣ノ
脈絡ヲ通ズルハ期シテ待ツベキニ於テオヤ
従来日本及ヒ支那ニ銀ノ供給不足ナルヨリ其ノ影響貴國ノ紙
幣下落ニ及ボセシノ大ナルハ自他原因ノ影響ノ比ニアラザル
コハ閣下ノ熟知セラルヽ所ナリ何トナレバ銀ノ供給不足アル
ノ日ニ当リテハ銀行管理者等（欧人ノ所有銀行及ヒ支那商人等ヲ指スナルベシ）
ハ同心連合シテ其所有セル小額銀弗ノ賣買ヲ獨占シ其價ヲ騰
貴セシメ貴國商人ノ輸入品代價ヲ償フガ為メ墨銀ヲ買収セン
ト欲スルモノヲシテ頗ル苦シマシムレバナリ
貴國政府ニ於テ斯ル銀行設立ノ企アルノ説一朝世上ニ漏ルヽハ
トキハ速カニ紙幣ノ信用ヲ復シ今日ニ於テ正金トノ差甚タ大ナ
ルモ忽チニシテ殆ド差ナキヲ見ルニ至ルベシ
且ツ又該銀行既ニ設立アリテ信ヲ世間ニ博スルニ至リテハ「ヒ」

金ニ富メル豪家ノ義カ

ルヴヲー、ボナザー（「ボナ」ホヌ詳カ）」ナル一語キング」等ハ従来其ノ貯蓄ノ銀ヲ悉ク「サンフランシスコ」及ヒ倫敦ニ於テ所有セシモ其ノ過半ヲ欧洲「ゴールド、キング」ヨリ引揚ケテ日本ニ輸送スベケレバ従テ銀ノ價格ヲ貴フシ且ツ日本ノ造幣局ニ取リテハ豫テ希望セシ如ク其ノ鑄造ノ業益々増加シ夜ヲ以テ日ニ継クモ尚ホ足ラザルニ至ルベキナリ

斯ノ如クナル時ハ速カニ銀價騰貴シ金價下落ニ至ルベシ何トナレバ欧洲ノ「ゴールド、キング」等ハ世界ニ於テ一般金本位ヲ立テンニハ此ノ目的ヲ達スルニ足ラシムベキ金僅カニ八分ノ五ナラデハ之レナキニ付キ金銀共ニ所有セザルベカラザルヲ知ルベケレバナリ然ル時ハ金本位ノ國ハ自カラ金ヲ以テ其ノ本位トスベク銀本位ノ國ハ銀ヲ以テ其本位トスベク又金銀両本位ノ國ハ金銀ヲ以テ両ツナカラ其ノ本位トスベク而メ交換紙幣及ヒ金銀貨本位ノ國ハ則チ其ノ交換紙幣及ヒ金銀貨ヲ以テ本位トナスヿヲ得ベキナリ

若シ我輩ニシテ英佛及ヒ米利堅ガ正金拂ニ復シタル既往理財上ノ経歴ヲ顧ルニ何レノ國ダモ未タ其正金及ヒ地金準備中ニ就キ壱億ヲ実地ニ使用セシヲ聞カザルナリ是レ蓋シ其ノ政府ヨリ発行セシ貨幣ノ平價（パアー）ヲ得ルニ至リシハ全ク人民ニ失フタル政府ノ信ヲ復セシ迄ニ止マリタルニ由レリ

然ルニ日本ニ於テハ恰モ之レガ反對ニ出デ政府ノ信用次第ニ消散スルノ模様アリ然リト雖モ今若シ此ノ壱千万ノ資本ヲ以テ成立スル「シルヴアー、バンク」ヲ起シ之ヲシテ正貨ヨリ紙幣ニ又紙幣ヨリ正貨ニ自由ニ交換セシムルノ制ヲ定メバ貴國理財ノ困難ハ速カニ救治スルヲ得ルヤ明ケシ米佛両國ノ今日ヲ観ルニ其所有スル所ノ金銀ノ多キハ如何ナル他ノ二國ノ所有ヲ一ニ

シテ之ニ比ブルモ決シテ又ブベカラス加之ノミナラス此等両
國（米佛ヲ指ス）ハ前キノ戦乱ノ為メニ十年間ニ於テ数十億ノ軍資ヲ
要シ殆ド國ノ富贍ヲ消費シ尽シタルニ拘ハラス今ヤ治平ニシ
テ専ラ諸業ノ進歩ヲ國是トスルニヨリ前日ニ比スレバ年々ノ
貨殖力一層盛大ナルヲ得タリ日本ノ如キモ亦タ該銀行ノ補祐
ニ由リテ通貨ノ実價ヲ復スルノ日ニ至リテハ現ニ新タニ開墾
ニ就カントシテ未タ成ラザルノ土地及ヒ業ヲ起サント欲シテ
未タ遂ケザルノ労力ニ乏シカラス豈ニ僅カニ壱億ニ充タザル
傷痍ノ癒ヘザルヲ憂ンヤ